

内閣総理大臣 安倍晋三様

防衛大臣 中谷 元 様

米国大統領 バラク・オバマ様

四軍調整官 ローレンス・ニコルソン様

沖縄、元米軍海兵隊員による、性暴力、殺人に対する抗議と要望

「殺さないでください」。

日常を生きることが、ここ沖縄では、許されないのですか。4月28日、夜8時に「ウオーキングに行く」と言って出かけたSさんが、3週間後、死体で発見されました。

1972年、復帰のとき、屋良朝苗主席が「基地があるかぎり、復帰が終わったとは言えない」と言った言葉をかみしめます。

米軍上陸から71年、「本土」復帰から44年。米兵による性暴力は、止むことはありません。1955年9月当時6歳のYさんが米兵により、レイプされ、ゴミ箱に捨てられました。手に草を握りしめていたそうです。1972年以降の米兵による事件事故数は5896件、凶悪事件は574件となっていますが、性暴力の場合は、泣き寝入りがほとんどです。レイプは性差別による魂の殺人です。3月16日、沖縄に来ていた観光客の一人が米兵に性暴力を受けました。その時、四軍調整官が「私たちは、沖縄の良き隣人です」と強調しました。米兵たちによって数えきれない、犠牲者が性暴力を受け、殺され、遺棄されました。まるで、占領者の権利のようにふるまっています。植民地そのものです。被害者は日常を生きていたかっただけなのです。加害者が公正な裁きを受けたことがあったのでしょうか。日米地位協定によって、米兵の人権だけが守られているのです。パスポートなしで沖縄入りし、基地の中で、人を殺す訓練を受け、沖縄の人間蔑視を教えられ、基地の外で、沖縄の人間の隣人になることは、不可能です。事件、事故が起こるたび、この協定の改定を求める声に「運用改善で対応する」と繰り返すだけです。さらに日本政府は思いやり予算で米軍を支援しています。琉球新報によれば、一連の事件の容疑者は、直接、手を下した者ですが、第二の容疑者は日米政府だと報じています。次の犠牲者が出るのを手をこまねいて待つわけにはいきません。

差別、性差別そのものの軍隊の全面撤去を求めます。本当の復帰を求めます。

ただちに、地位協定の改定に着手してください。

性差別をなくし、一人一人が与えられた生や性を自分らしく生きることを大切にしている当委員会から強く抗議し、要望します。

2016年5月30日

日本バプテスト連盟

性差別問題特別委員会